

機関番号：34425  
研究種目：基盤研究(C)  
研究期間：2008～2010  
課題番号：20520099  
研究課題名(和文) 西安碑林博物館所蔵碑誌彫飾文様6～10世紀基準作例の造形分析と系統化の基礎研究  
研究課題名(英文) The molding analysis of 6-10 Xi'an Forest of Stone Tablets Museum possession monument magazine carving decoration pattern century standard models and fundamental researches of systematizing it  
研究代表者  
山本 謙治(YAMAMOTO KENJI)  
阪南大学・国際観光学部・教授  
研究者番号：30309372

研究成果の概要(和文): 西安碑林博物館所蔵碑誌の検討により、重要な6～10世紀基準作例を検出することができた。と同時に、文様研究の方法を、空間分割・配置構成・文様構成・文様構造・モチーフ系統の分析をおこなうことができた。

研究成果の概要(英文): By the examination of the Xi'an Forest of Stone Tablets Museum possession monument, I was able to detect 6-10 important century standard models. At the same time, by the method of the pattern study, I was able to analyze space the division / placement constitution / pattern constitution / pattern structure / the motif system.

## 交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：文様・空間分割・配置構成・文様構成・文様構造・モチーフ系統

## 1. 研究開始当初の背景

西安碑林博物館は 1993 年に旧陝西省博物館より独立した中国最大規模の石刻博物館で、274 種 3500 以上の石刻品を所蔵している。このうち碑石・墓誌・墓誌蓋は 2000 石以上に及ぶが、それらの多くには各時代の優れた装飾文様が施されている。しかしながら従来の日中碑誌研究の対象は銘文に限られ、碑林碑刻文様が本格的な研究対象とされることはなく、著名な 10 数石の作例を除いては、日中いずれの研究者もその全貌を把握していないのが現状である。

装飾文様の施された作例は建築・彫刻・絵画・工芸というほとんどの造形領域に存在し、その作例数が極めて多いということは装飾文様史研究における大きな利点である。しかし、その一方で、制作年代の明確なく基準作例> が乏しいこと、施文領域全体の配置構成が分析できる拓本と、単位文様を分析できる細部写真の両者を合わせた文様資料の蒐集が難しいこと、この 2 点が装飾文様史研究の大きな妨げとなっている。

この点、西安碑林博物館の所蔵する石碑・墓誌・墓誌蓋には多種多様な装飾文様が施されると同時に、碑文・墓誌銘により制作年代が判明するものが多く、いずれも装飾文様史における貴重な基準作例> となり得るものである。さらに碑林所蔵碑石・墓誌は、だいたい形式が長方形と定まっており、相互の比較が容易である。

以上の点に着目して山本は館長趙力光氏と 2008 年に共同研究を締結した。

## 2. 研究の目的

- (1) 碑石側面文様の写真と拓本
- (2) 文様写真のコンピュータによるスキャン
- (3) 日中共同による『西安碑林博物館所蔵石彫文様の研究』の出版。

## 3. 研究の方法

- (1) 収集文様写真をコンピューターにスキャンする。
- (2) 各写真を、<空間分割> <配置構成> <文様構成> <文様構造> <モチーフ系統> の諸点でコンピュータ分析する。

## 4. 研究成果

- (1) 写真撮影で困難を伴ったため、資料として使用できる石碑は 29 石にしか及ばなかった。
- (2) これらを整理・分類すると、これまで全く問題にされなかった<空

間分割> の概念が明確になり、<文様構成> と<文様構造> の相違が明らかにできた。

- (3) また<文様構造> において複合文様・単位文様・文様要素の三点を区別する必要が生じた。
- (4) <空間分割> 分析の結果、並行縦線・相対波状曲線、波状曲線などが分類された。
- (5) また、モチーフ系統として動物系モチーフ・抽象化モチーフ・過度的植物系モチーフ・植物系モチーフと展開することが証明できた。
- (6) これまでの研究成果としては、『西安碑林博物館石彫文様の研究』(2011 年度出版) を出版しているが、そこでは基礎資料として 29 石・研究編として 11 石について言及している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

西安碑林碑石文様にみるモチーフ融合過程の造形分析(日本文化史大会・同志社大学・2008 12 月 5 日)

西安碑林博物館石彫文様の造形分析

コンピュータ利用による文様分析法

(日本中国考古学会・2008 年度大会・金沢大学・2008 年 11 月 23 日)

〔図書〕(計 2 件)

山本謙治『玉虫厨子透彫り文様にいたる東アジア動植物モチーフ融合文様形成過程の研究』(平成 20 年 4 月)

山本謙治『西安碑林博物館石彫文様の研究』(平成 23 年 5 月)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

山本 謙治 (YAMAMOTO KENJI)

阪南大学・国際観光学部・教授

研究者番号：30309372

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：